

詩編 91 篇 1-16 節

いと高き方の陰～完全な守り～

91:1 いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る。91:2 私は【主】に申し上げよう。「わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神」と。91:3 主は狩人のわなから、恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。91:4 主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実、大盾であり、とりである。91:5 あなたは夜の恐怖も恐れず、昼に飛び来る矢も恐れぬ。91:6 また、暗やみに歩き回る疫病も、真昼に荒らす滅びをも。91:7 千人が、あなたのかたわらに、万人が、あなたの右手に倒れても、それはあなたには、近づかない。91:8 あなたはただ、それを目にし、悪者への報いを見るだけである。91:9 それはあなたが私の避け所である【主】を、いと高き方を、あなたの住まいとしたからである。91:10 わざわいは、あなたにふりかからず、えやみも、あなたの天幕に近づかない。91:11 まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。91:12 彼らは、その手で、あなたをささえ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにする。91:13 あなたは、獅子とコブラとを踏みつけ、若獅子と蛇とを踏みにじろう。91:14 彼がわたしを愛しているから、わたしは彼を助け出そう。彼がわたしの名を知っているから、わたしは彼を高く上げよう。91:15 彼が、わたしを呼び求めれば、わたしは、彼に答えよう。わたしは苦しみのときに彼とともにいて、彼を救い彼に誉れを与えよう。91:16 わたしは、彼を長いのちで満ち足らせ、わたしの救いを彼に見せよう。

はじめに

詩編91:1. 「いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る」

神様の陰と言う表現は聖書で、完全な守りと言う意味で使われています。今日の詩編にはっきりと書いてありますが、5月2日の礼拝のメッセージで見た詩編121編にも、同じ神様の陰による守りが書いてあります。

詩編121: 5-6 「主は、あなたを守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない」

神様のご臨在の陰による守りは昼も、夜も、完全な守りであると言う意味です。今日の91篇には更に詳しく書いてあります。

初めて刑務所で詩編を読んだ時の証しー私は隔離されていた状況でも慰めと励ましを得ました。なぜなら、詩編は著者の深い人生体験から書かれていて心に響くものが沢山あるからです。今日の詩編91編では神様の完全な守りを詳しく見て頂きたいと思います。

1.主の美しさを見る (1-2) 節

詩編91:1 「いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る。2 私は主に申し上げよう。「わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神。」

これは全ての神様の子どもが与えられている特権です。特に祈りによって神のご臨在に入る時に主の美しさを見て安心することが出来ます。「いと高き方の隠れ場」の意味は神様のご臨在の中と言う意味です。別の詩編にも書いてあります。

詩編27:4-5 「私は一つのことを主に願った。私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。

5 それは、主が、悩みの日私を隠れ場に隠し、その幕屋のひそかな所に私をかくまい、岩の上に私を上げてくださるからだ。」

先週のメッセージの終わりに詩編23編6節でも見たように、イエス様を信じて受け入れているすべての人に与えられている特権は、いつでもどこでも、祈りによって神様の前に出る事が出来ることです。

詩編23:6「まことに、わたしの命の日の限り、慈しみと恵みとが、私を追ってくるでしょう。」
ヘブル人の手紙4:16「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかかった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

恵みの王座は神様の王座、その前に大胆に出る事が出来るのはイエス様が新しい生ける道となって下さったからです。これはこの地上にいる限り私達の経験出来る最高の特権です。

ヨハネ1:12「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

神様の子どもとされる特権は沢山ありすぎて全部言い尽せませんが、その一つは完全な守りが与えられていることです。詩編91編に戻りますが、神様の守りは全ての神の子どもに与えられている事がわかります。

詩編91:14「彼がわたしを愛しているから、わたしは彼を助け出そう。彼がわたしの名を知っているから、わたしは彼を高く上げよう。」

神様を愛している人、又は神様の名前を知っている人にはすべてのイエス様の信者が含まれていません。

ローマ8:28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

ここで、神を愛する人は誰なのかと説明されています。「すなわち、神のご計画に従って召された人々」と言う事です。何のご計画でしょうか？当然、救いの計画として説明されています。

ローマ8:29「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」

生まれる前から、神様は私達の事を全て知って、私達の救われる前の事も含めて全てを最善になるように働かせて下さいます。

ローマ8:31「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

誰も、敵対出来ないと言うのは完全な守りに決まっています。

しかし、それは全てが問題なく、困難なく、楽に進むと言う意味ではない事を忘れないで下さい。

詩編91:15「91:15 彼が、わたしを呼び求めれば、わたしは、彼に答えよう。わたしは苦しみのときに彼とともにいて、彼を救い彼に誉れを与えよう。」

「苦しみの時に彼と共にいて彼を救い...」

この詩編は最初と最後は神様と個人的な親しい関係について書いてあるのです。

2. 神の守りの美しい描写

91:3「主は狩人のわなから、恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。」

見えない危険が一番怖いのです。病気でも、わなでも、どちらも見えない危険ですが、それでも、何も恐れる必要はないように完全に守られていると教えられています。目に見えない危険に対して私達は無防備なので怖いのです。

私が今まで経験した死に直面するような状況の中でも、2つの経験の違いを比較してみたいと思います。まずはテロ組織同士の紛争の中で拉致されて撃たれた時、そして神戸の大震災の時の2つです。前者は恐ろしい経験でしたが、後者の震災経験は、死んでも大丈夫という平安が与えられ怖くありませんでした。それは、肉眼で見えるかどうかの問題よりも、心の目で見えているかどうかの問題だからです。

詩編91:7-8「千人が、あなたのかたわらに、万人が、あなたの右手に倒れても、それはあなたには、近づかない。8 あなたはただ、それを目にし、悪者への報いを見るだけである。」

こうして死に囲まれても、周りで多くの人が死んでも、何も恐れなくて生きる事が出来ます。4節にはこうあります。

詩編91:4「主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、とりでである。」

親の鳥がひな達を翼の下に隠して守るように、完全な守りの美しい描写として説明されています。神様の守りは、聖書の中で何回も繰り返して「その翼の下に入れてくださる」「その陰の中に入れて下さる」と表現されています。ひな達はその中にいる時、外はどんな嵐があっても、完全に安心して避難出来ます。そして続きは、「主の真実は、大盾であり、とりでである。」とあります。この霊的な守りの教えは、新約聖書で使徒パウロが信仰の大盾によって悪魔の火矢を消しなさいと教えているのと重なります。主の「真実」は英語訳の聖書には二つの訳し方があります。Truth（真理）、それとFaithfulness（誠実）、両方の意味が含まれているからです。神様は真理の御言葉である聖書の約束を絶対を守るという事を信じる信仰が、大盾として悪魔の嘘による攻撃から私達を守ってくれるという意味です。

第二コリント1:20「神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言ひ、神に栄光を帰するのです。」

この御言葉も、明確に全てのイエス様の信者の為にあります。「この方においてしかりとなりました。」つまり、キリストにいると言う条件だけなのです。サタンでも、神様の約束はすべての神の子どもの為だと分かっているイエス様にこの詩編の中から、11-12節を引用して誘惑しました。マタイ4:6「言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』」と書いてありますから。」

「あなたが神の子なら」と言って詩編19:11-12節を引用して誘惑しました。イエス様は正しく別の聖書の言葉を引用してサタンに立ち向かって打ち勝ちました。91編の続きはサタンに打ち勝つ勝利を明確に説明しています。

詩編91:13「あなたは、獅子とコブラとを踏みつけ、若獅子と蛇とを踏みにじろう。」

聖書の中でサタンはこの二つの生き物によって象徴的に表されています。獅子と蛇です。エデンの園で人間が初めてサタンに誘惑されて罪を犯した時から、蛇として現れて神様に呪われた時に神様にこう言われました。

創世記3:15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

もちろん、これはイエス様によって成就されたから、今、イエス様を信じている私達もサタンに打ち勝つ勝利が出来ます。

5月2日（日）に、これに関連する面白い出来事がありました。OICの礼拝がオンライン配信のみになった為に、私は詩編121編から「全能の神はいつも私達の味方」と題して話したその日曜日のメッセージを前持って録画していました。ですから、日曜日当日は、息子夫婦が受け継いでくれた以前私が牧師をしていた教会に久しぶりに行きました。そこで同じテーマにして話しをして神様の守りについて話しました。礼拝の後でその教会の一番中心的な役員が話しかけてきました。その日の朝早く、礼拝に来る前に村の道造りをしていた時、マムシを踏んづけたが噛まれなかったのだそうです。そのタイミングがとても偶然だと思えなくて神様は実体験によって彼と家族に御言葉の真実を教えて下さったのです。

第一ペテロ5:8。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるしのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」

自分の力だけだったら、霊的に無防備ですが、良い羊飼いの完全な守りがあるから、勝利出来ます。

3. 神様の守りの方法の美しさ

詩編91:11-12「まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。12 彼らは、その手で、あなたをささえ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにする。」

聖書の中で御使いによる神様の守りの実例が山ほどあります。それから、宣教師の証し、又はクリスチャンが迫害を受けている国で今でも、御使いによる守りの証しをよく聞きます。もちろん、神様の計画によって与えられる時と与えられない時もあります。使徒の働き12章では使徒ヨハネの兄弟ヤコブがヘロデ王に殺されて、次にヘロデ王はペテロをも殺そうとしたが、神の御使いが現れてペテロを刑務所から奇跡的に開放してあげました。なぜ、ヤコブの為に御使いが同じように働かなかったかと考えさせられますが、その時に見えなかったから、いなかったと言う意味ではありません。

第二列王記6:16-17. 「すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから。」と言った。

17そして、エリシャは祈って主に願った。「どうぞ、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」主がその若い者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。」

と言う事は見えていなくても、神様の御使いによる守りがあります。エリシャのような素晴らしい預言者だから特別な例外だと思ふなら、イエス様がそれについて話したことを見ましょう。

マタイ18:10「あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。」

イエス様はどんなに小さい子どもでも、神様の御使いによって守られていると言いました。イエス様の言葉の中でもとても厳しい話しの流れでそれを言われています。

マタイ18:6「しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。」

ここで特にイエス様を信じる子どもに罪を犯させないように気を付けなさいと教えました。その話しになった理由を見て下さい

マタイ18:1-4「そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」2そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真中に立たせて

3言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。4だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。」

人間の目から見て偉いと思われる人、例えば教会の中で目立つような指導者が神様の目から見て特に偉いと言う事はありません。神様の守りはそれによって決まるではありません。

ヘブル人1:14. 「御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたものではありませんか。」

この聖書の言葉も「救いの相続者となる人々」と書いてあるから、イエス様の全ての信者にとってすごい励ましになります。もっとすごいのは神様が最初から、救われる人を予め知っているから、救われてから神様の守りが始まる訳ではないということです。ですから、クリスチャンになった人は皆、振り返って見て自分が神様を知る前から、生まれてからずっと守られて来た事が見えるようになります。

母の日に少しお話したことですが、神様は私の母の祈りと共に働いて、7歳の時に私の髄膜炎が奇跡的に治って、それが父の救いと繋がっていました。それから、私が20歳で政治犯として刑務所でイエス様との出会いによって救われるまで、紛争の中で何回も奇跡的に命が助かっていました。でも実はそれは氷山の一角でした。もちろん、クリスチャンになってから、神戸の震災も含めて何回も神様の守りを体験して来ていますが、クリスチャンになってから、それが神様の守りとして初めて見えるようになったのです。

まとめ。神様の完全な守りは美しいですが、天使を中心にしないようにという警告もあります。ヘブル人の手紙の1章が最初から最後の14節まで何よりも強調しているのは、御使いの皆をすべて合わせても、イエス様と全然、比べ物にならないということです。

ヘブル人1:5-6「神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」またさらに、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。」

6 さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、こう言われました。「神の御使いはみな、彼を拝め。」

人間は御使いを見た時に、拝もうとしたが止めさせられてイエス様を拝むように命令されました。